

表1 主な組織の残留放射能

投与群		性	投与 168 時間後				
			甲状腺	全血	肝臓	腎臓	その他
Cp- <sup>14</sup> C- フェンアミドン	高用量 単回	雄	26.5	2.68	1.68	0.71	皮膚及び被毛(0.91)
		雌	28.2	5.01	1.50	0.81	皮膚及び被毛(1.12)
	低用量 単回	雄	2.30	0.03	0.04	0.02	皮膚及び被毛(0.03)
		雌	2.23	0.05	0.04	0.01	皮膚及び被毛(0.02)
	低用量 反復	雄	4.73	0.06	0.06	0.03	皮膚及び被毛(0.03)
		雌	2.22	0.04	0.05	0.01	皮膚及び被毛(0.02)
Np- <sup>14</sup> C- フェンアミドン	低用量 単回	雄	n.d.	0.07	0.06	0.03	脾臓(0.02)
		雌	0.010	0.09	0.06	0.02	脾臓(0.03)
	低用量 反復	雄	0.07	0.11	0.10	0.08	脾臓(0.05)
		雌	0.06	0.10	0.07	0.03	脾臓(0.06)

注) 残留放射能濃度はフェンアミドン換算濃度 (μg/g)。

Cp-<sup>14</sup>C-フェンアミドンならびに Np-<sup>14</sup>C-フェンアミドンの各投与群の尿中、糞中ならびに胆汁中から検出された代謝物の分布は表2の通りであった。

胆管にカニューレを挿入したラットに低用量単回経口投与し、尿、糞、胆汁を投与後48時間まで採取したところ、尿から投与量の6.33~17.6%、糞から1.08~4.46%、胆汁から71.3~83.4%が回収された。

表2 排泄物中の代謝物の分布

		Cp- <sup>14</sup> C-フェンアミドン		Np- <sup>14</sup> C-フェンアミドン
		高用量単回	低用量単回	低用量単回
尿中 (0~120時間)	フェンアミドン	0.13~0.25	n.d.	n.d.
	B	n.d.	0.24~1.91	1.20~1.31
	C	0.09~0.10	0.05~0.25	
	D	0.27~0.84	0.53~2.94	
	F	0.52~3.06	0.64~4.76	2.62~7.26
	各種抱合体	3.76~5.04	2.58~14.4	0.10~13.9
	尿中放射性画分合計	10.4~13.0	12.3~39.4	26.5~40.4
糞中 (0~120時間)	フェンアミドン	49.9~67.8	n.d.	n.d.
	B	5.55~7.53	4.65~8.00	7.88~8.14
	C	0.84~1.99	8.40~10.5	
	F	6.18~6.90	7.67~12.9	15.7~17.4
	各種抱合体	0.40~7.71	12.2~29.6	11.2~16.6
	糞中放射性画分合計	72.2~84.7	49.3~72.9	44.9~59.1